©錦城高校新聞委員会編集室 2023
錦城高校新聞 ２０２３年（令和５年）９月１５日（金曜日）

錦城高校新聞

題字　井口　文章

再刊　第４２６号

印刷・発行

錦城高等学校新聞委員会
編集室 2023

みんなでつくる
錦城高校新聞

一面：夏休みに活躍した4団体を特集
錦城がテレビで特集！
二面：小平にあるウクライナ避難民食堂を紹介
家庭料理を実際に味わってきました！

限界まで出し切った夏

全国大会好成績の４団体

夏休み中に７つの団体が全国大会に出場した。前号に続いて、今号では陸上競技部・鉄道研究部・映画研究部・バドミントン部の４団体を紹介する。（編集部共同取材）

陸上競技部 インターハイ決勝進出

８月23日（水）北海道にて北海道総体２０２３年度全国高等学校総合体育大会が行われた。陸上競技部門女子５０００m競歩に陸上部の早川愛花さん（２L）が出場し、８月３日に行われた決勝にて第13位という成績を残した。

早川さんは大会を「初めて出場するインターハイだったので、とても緊張しました」と振り返る。

決勝前に行われた予選では、自己ベストを30秒ほど更新して決勝に進むことができたのだそう。しかし、決勝では他の選手が最初から速いスピードで歩いていたため、ついていけなかったのが悔しかったと語る。「それでも、全国のスピードを生で体験することができました」と前を向いた表情で話してくれた。

決勝という舞台に立つまでに工夫した点は「直前にあった陸上部の夏合宿では、みんなと違うメニューを、実際にインターハイが開催される時間帯に合わせてこなしていました」と早川さん。錦城生へ「夏休み中での試合でしたが、部活の仲間がLINEなどで応援してくれてとてもうれしかったです。今回、入賞することはできなかったので、来年は絶対に入賞します。応援よろしくお願いします！」と、来年に向けて熱く意気込んだ。

ゴールを見据えて懸命に歩く（陸上部より提供）

鉄道研究部 ベストクオリティ賞受賞

８月４日（金）から６日（日）にかけて新宿住友ビル三角広場にて行われた第15回全国高等学校鉄道模型コンテストに鉄道研究部が出場し、ベストクオリティ賞を受賞した。この大会は全国の高校生が出場する高校生の鉄道模型コンテストとしては最大規模のもので、錦城は今回で５回目の出場となる。

鉄道研究部は今回、「Re:」という作品を作成した。火山の噴火によって崩壊した街とその復興がテーマとなっており「再生」という意味をもつこの作品名にしたという。錦城では初となるベストクオリティ賞の受賞を受けて、制作に関わった美濃谷鴻樹さん（１F）は「新しいものを作る身としては、冥利に尽きますね」と話す。

現在、鉄道研究部には２年生がいないので、現在の１年生がこれからは作品を作っていく。美濃谷さんは「想像力を活かして、過去の作品にはなかった新しいコンセプトで制作を進めていきたいです」と力強く話してくれた。

文化祭でも展示される予定

映画研究部 NHK杯準優勝

映画研究部は７月27日に渋谷区のNHKホールで行われたNHK杯全国高校放送コンテスト創作テレビドラマ部門で準優勝を果たした。

代表の武市大志さん（３K）は自分たちの限界を出し切ることができたと話す。この大会ではトップ３に入るとNHKホールの大スクリーンを使い、大勢の人の前で作品を上映することができるそうで、武市さんはNHKホールで自分たちの作品を上映することを目指して頑張ってきたという。去年は惜しくもベスト５だったこともあり、今年の作品にはより一層力が入っていたそうだ。

制作を振り返って武市さんは、去年は作品を提出した後に改善点を見つけるなどもっとできたという悔しさがあったという。そのため「今年は早めから何度も見直したり、繰り返し粗がないかを確認しました。そのことが結果につながったのだと思います」と冷静な分析を交えながら話してくれた。

「作品を出す最後の最後まで詰めが甘くならないようにがんばってください」と自分の経験を踏まえながら後輩たちにエールを送った。

粘り強い制作が結果につながる
（映画研究部より提供）

バドミントン部 私学選抜大会出場

バドミントン部男子団体は８月28日（月）から31日（木）にかけて、東京都調布市の武蔵野の森総合スポーツプラザで行われた全国私立高等学校選抜バドミントン大会に出場し、全48団体中42位という成績を収めた。

男子団体のメンバーは坂本惺さん（２A）、金朱暎さん（２A）、宮崎孝太郎さん（２B）、中村真大さん（１A）、山本光博さん（１D）、矢島実さん（１K）の６人。キャプテンを務めた坂本さんは全国大会に出場するということが決まっても、特別な練習をするのではなく、いつも通りの練習を続け、全国に挑んだそうだ。また、全国の舞台だからと言ってひどく緊張することなく、いつも通りリラックスして戦えたという。今回の大会を通して、学べたことは多かったですし、他のメンバーもたくさんのことを学べたと思うと振り返り、「今回の経験を今後に生かしていきたいです」と語ってくれた。

緊張せず戦えました
（バドミントン部より提供）

この夏錦城がテレビで特集

映研全国への道　密着取材

BSテレビ東京番組に出演

８月19日の午前10時30分からBSテレビ東京『THE名門校』にて錦城の特集が放送された。この番組は全国各地の、様々な分野で活躍する名門校にフォーカスした番組で、錦城は難関大合格者数が増加していることや様々な部活の活躍が評価されて特集に至った。放送内容は錦城での学校生活やNHK杯に挑む映画研究部の特集などだ。学校生活の紹介では、たくさんの友人らと仲睦まじい姿で映る錦城生の姿が印象的だった。実際の放送を観たという宮坂悠史さん（１B）は「錦城のいいところが分かりやすく放送されていて、在校生が観ても錦城の良さを再認識できるいい番組だったと思います」と話してくれた。

密着を受けた武市さん

映研密着ドキュメント

映画研究部の取材の中で密着取材を受けた武市大志さん（３K）は「今まで、後輩や生徒の皆さんに作品の制作過程を見せることができなかったのですが、テレビの映像という形ではあるもののどのような思いで制作と向き合い、どのようなことをやっているのか伝わったのではないかと思います」と取材を受けての感想を話してくれた。（蘭）

着々と進む錦城祭準備

９月16日（土）、17日（日）に錦城祭が行われる。前号ではその他の、部活や同好会、有志団体の企画を一覧にした。それが左にある図だ。また、錦城のHPには錦城祭特設サイトが設置されている。そこでは、企画一覧だけでなく、お知らせや錦城祭本部からのコメントを見ることが出来る。ぜひ一度見てみてほしい。（本部などは次号にて詳しく特集！）

企画団体	企画名	場所
クッキング同好会	フルーツポンチ	３I教室
茶道同好会	茶会	和室
生物部	キモカワアニマル	理科室B
卓球部	ピンポンシューティング！2023	被服室
弓道部	的中て	弓道場
美術部	美術部の販売・展示	美術室
新聞委員会	新聞づくり４STEP	ラーニングスペース
図書委員会	百見堂	233教室
将棋部	将棋ひろば	132教室
文芸部	錦文代	２I教室
写真部	Shutter Chance!	３M教室
鉄道研究部	ようこそ鉄研へ！	音楽室
百人一首同好会	三十一文字の出会い	３G教室
有志クイズ研究会	クイ研が皆へ送る！早押しクイズ！	
び～ず	小平産野菜販売	食堂前
有志マジック研究会	消しゴムマジックで消してやるのさ	２H教室
ハンドボール部	ストラックアウト	多目的コート
書道有志団体	書道作品の展示	ウッドデッキ
空手道部	演武会	第一体育館
ダンス部	Colorful	第一体育館
体操部	タンブリング	第一体育館
吹奏楽部	KBBドリルステージショー	第一体育館
吹奏楽部	吹千音～すいっちおん～	第二体育館
室内楽部	fiesta－祝祭－	多目的ホール
映画研究部	映画上映会	多目的ホール
ピアノ有志団体	有志ピアノコンサート～life is music～	多目的ホール
ギター同好会	Hardenbergia	1H教室
軽音楽部	K-on　文化祭ライブ	視聴覚A・B

1日2回の真剣試合

百人一首同好会部員募集中！

今回の文化部めぐりで紹介するのは、百人一首同好会だ。取材に応じてくれたのは同好会会長の佐藤綾美さん（２K）。この同好会の活動日は火曜日と土曜日で、人数は１・２年生が計14人、３年生が５人だ。日々の主な活動内容は、一日におよそ２回試合を行うことだという。

真剣に札を見つめる

百人一首同好会の魅力を「同好会なので、いい意味でゆるいと思います。でも試合の時はみんな真剣です」と語る佐藤さん。

錦城生へ伝えたいことを聞くと、佐藤さんは「百人一首を百首覚えるのが大変だという先入観を捨てて、百人一首を始めるきっかけや楽しさを知ってもらえたら嬉しいです。楽しませる自信があるので、興味があれば活動を見学に来てください」と話してくれた。

百人一首同好会は学年を問わず、現在も部員を募集している。興味がある人は、まず文化祭の企画を訪れてみてはどうだろうか。（希）

むらさき草

夏休み、住んでいる市の親善大使国際交流プログラムに応募して、オーストリアのウィーンに交換留学生として約２週間滞在した。見るもの全てが新しく、日本とはまた異なる文化を肌で感じることができた時間だった▼その中で一つ実感したことがある。円安傾向とはいえ、それでも現地の物価が日本に比べて高い。小さなお土産を買っただけなのに日本円に換算すると５０００円を超えているということはザラにあったし、美術館の入場料も高かった▼日本に帰ってきて、やはり「安さ」に驚いた。むこうではノート３冊で１０００円かかったのに対し、日本では安ければ３冊セット１００円、５冊セット１２０円と破格の値段に感じた▼この夏日経新聞に掲載された「コロナ後に売上高が最も高かった企業ランキング」によると、一位は大手企業などではなく、豚骨ラーメン店『一風堂』だった。注目点は海外店舗数と価格の差にある▼一風堂は欧米に海外店舗を展開していて、その数は１３１店舗。日本国内では１２９店舗なので、海外店舗の数の方が多い。そして、日本ではラーメン一杯８５０円で提供しているが、アメリカでは一杯約３０００円と３倍以上の差がある（日本経済新聞２０２３年９月３日）▼最近は物価高と言われているが、海外比較ではそれでも安いと言われる日本の物価は、経済的な成長率が低いということになる。実際、アメリカ、イギリスなどは今までの33年間の間に物価は２００～２５０％増になっているのに対し、日本は20％増と少ない（PRESIDENT Online２０２３年８月23日）。これは少子高齢化による市場縮小などとともに、相対的な物価安は日本経済の国際競争力の低下を意味していると言われる▼世界恐慌が世界大戦につながったように、経済の混乱はその他もろもろの要因と併せて戦争にもつながる。そうならないためにも、身近な場面から経済について考えることができたこの夏の経験を生かして、今まで以上に日本経済や世界の情勢に関心を持ちたい。皆さんも、まずは自分のすぐ近くのところから目を向けてみてはどうだろうか。（珠）

地元小平で味わうウクライナの家庭料理

「Nadiya」のロゴ

ウクライナ避難民運営食堂が地元小平でランチを営業している。そのレストラン「Nadiya」にこの夏伺い、実際にボルシチなどのウクライナの家庭料理を味わって、このレストランの経緯などについてお話をうかがった。（白）

ウクライナ避難民食堂を訪問

避難民が働くレストラン

８月22日(火)、「Nadiya」というレストランに取材に伺った。このレストランはウクライナ戦争の影響でウクライナから西東京市や小平市に避難してきた方々を雇用し、ウクライナの郷土料理を提供している。

「Nadiya」の日本人スタッフとして働いている別當紀人さんは、10年前に知り合っていたエリザベータさんの日本への避難を支援するために身元保証人になった。そして日本語を話すことが難しいエリザベータさんをはじめとする、ウクライナ避難民が、日本語を話さなくても働ける環境として「Nadiya」の営業が始まった。昨年11月にはヴィクトリアさんとナターシャさんの親子も加わり、現在は３人のウクライナ避難民が働いているそうだ。

店内にはロシア土産が!?

私たちが来店した日に働いていたのは、昨年11月に親子で来日したヴィクトリアさんとナターシャさん。２人はロシアをはじめとする多くの国に住んでいたことがあり、ウクライナには３年ほど住んでいた。ウクライナ侵攻が始まり、ウクライナに戻れなくなったことから、日本へ避難してきたという。娘さんのナターシャさんにウクライナ侵攻に対する思いを聞くと、「ウクライナ人ではありますが、ロシアに住んでいたこともありますし、ウクライナとロシアは食をはじめとする様々な文化が似ているので、難しい質問ですね」と答えてくれた。

実際に、店内にはこの日もナターシャさんたちが持参してきたロシア土産のマトリョーシカなどが飾られており、ロシアの文化も感じることができた。

マトリョーシカと共に微笑むナターシャさん

店内に飾られているロシア土産

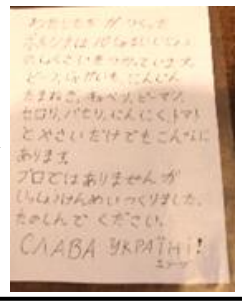
高校生にできること

「Nadiya」で働いているナターシャさんたちはまだ十分に日本語を話すことはできないが、私たち新聞委員の拙い英語での取材には優しく、簡単な英語で答えてくれた。また、メニューの右ページには日本語でのメッセージがあり「プロではありませんが、いっしょうけんめいつくりました。たのしんでください」と書いてくれていた。ナターシャさんのようにウクライナ戦争から避難してきた避難民は多くいて、避難民の方々は会話もままならない環境で一生懸命日々を過ごしている。

そのような人々へ私たち高校生が助けとなることは出来るだろうかと思い、高校生にしてほしいことはあるか、ナターシャさんに聞くと「大変だと思うけれど、勉強を頑張って。人々に平和を伝えてほしい」と話してくれた。私たち高校生に大きな金額の支援などは難しいかもしれないが、「Nadiya」で食事をとることも支援につながる。ボルシチは７００円から注文することが出来る。今回この紙面で少しでも興味を持った生徒がいるなら、ぜひ足を運んでみてほしい。

＊＊＊

取材の最後に、別當さんから、以前「Nadiya」に取材に来た方々が作成した冊子「インタビュー！足立の子供支援３」をいただいた。その冊子はエリザベータさんや別當さんへの取材を会話形式で掲載している。ウクライナ戦争が始まった時の状況や、現地の人々の反応、エリザベータさんが日本に避難してくるまでの過程が書かれている。興味のある人は、ぜひ新校舎７階の生徒会室に来て、手に取ってみてはどうだろうか。（白）



丁寧な日本語で書かれている

編集委員が食べてみた！

「Nadiya」には、一日平均８名ほどのお客さんが訪れるそう。そのお客さんたちのほとんどの方が注文するメニューが「Nadiya セット」（税込み１６００円）。このメニューはボルシチ、パンor おにぎり、サラダ、ヴァレーニキ（２個）、さらにウクライナ名産の蜂蜜を使用した紅茶がセットとなっている。（白）

↑この野菜がビーツ

ボルシチ

大きくカットされた具材がスープの中にたくさんの種類の野菜がゴロゴロと入っていて、食べ応えがありました。トマトの味は強すぎず、さらっとしていて食べやすかったです。温かい料理で体が温まる感じがし、おいしかったです。

トマトが煮込まれていてとてもさっぱりしていましたが、上に載っているサワークリームを混ぜることでまろやかになり、飽きずに最後までおいしく食べることができました。見た目も風味もミネストローネと似たような感じがしました。

ボルシチは、たくさんの種類の野菜を使ったヘルシーな伝統的料理で、ウクライナでは「飲む輸血」と呼ばれるほど栄養があり、味わい豊かな煮込みスープだという。ウクライナ人にとっては「おふくろの味」であるウクライナ代表の家庭料理だ。（白）

ヴァレーニキ

餃子のような見た目をしていますが、中にブルーベリーが入っていてびっくりしました。ブルーベリーを包んでいるまわりの皮はもちもちで、おいしかったです。クレープのような味が楽しめました。外の皮の食感と中身のブルーベリーの食感の違いが楽しめました。

外の皮がとてももちもちしていました。また、中にブルーベリーが入っているだけでなく、上にもブルーベリーソースとしてかかっていて、二回もブルーベリーの味を感じることができてとても美味しかったです。

二種類の味があるヴァレーニキはウクライナの水餃子だそう。しかし、日本の水餃子のような中身がお肉になっているものではなく、ヴァレーニキの中身はジャガイモかブルーベリー。ジャガイモの入ったヴァレーニキはおかずのような感覚で食べることができるもので、ブルーベリーのヴァレーニキは甘酸っぱいデザートのようなものだ。（白）

サラダとビーツ

ボルシチに含まれる具材に、日本人にはあまりなじみのない「ビーツ」という野菜がある。赤く、味や触感はカブのようなものだ。ビーツはとてもかたいので、少し茹でて柔らかくしてから切ると教えてくれた。「Nadiya セット」のメニューの一つ、サラダにもビーツは使用されているので、煮込まれたビーツと切られたままのビーツを楽しむことが出来る。（白）

来店客に取材

私たちが「Nadiya」に取材に伺った日に、実際に食事を楽しんでいたお客さんに料理の感想などを聞いた。

家族で味わうボルシチの味

親子４人で訪れて、「Nadiya セット」を一人ずつ注文していたお客さんは２か月程前に「Nadiya」を知って興味を持っていたが、営業時間中は仕事や学校があるため、４人揃って来れる夏休みを利用して来店されたようだ。

ウクライナ料理に興味があるというお母さんは「ボルシチはロシアの食べ物だと思っておお店に来ましたが、実際はウクライナでも日常的に食べるもので、二国の食文化が似てると知りました」と話した。

ボルシチを食べた高校生の男の子は「具がゴロゴロと入っていて食感がよかったです。シチューだと思っていたけれど、食べてみたらスープに近かったです」とおいしかったと満足気に語る。

取材の最後に「大きなお金は渡せないけど、料理を食べに来ることで少しでも支援ができるし、とても美味しかったのでまた来たいです」と４人は口を揃えて話してくれた。

地元から訪れる常連さん

私たちが取材に伺った小平の店舗だけでなく、西東京の店舗にも顔を出すという常連の男性は、小平が地元の方で、錦城が男子校だった頃から知っていると話してくれた。男性は戦争が始まってからウクライナに興味を持ち始め、お店を訪れたという。

私たち高校生に「原爆の恐ろしさを学ぶように、ウクライナ戦争やウクライナについて知ってほしい」と伝えてくれた。

別當さんに取材する様子

小平市の「Nadiya」の外観

ウクライナ侵攻の現状

ウクライナとロシア　身近に考えるために

２０２２年２月24日にロシアがウクライナに侵略を開始した。ウクライナは旧ソ連崩壊時に独立したが、以前から国内では親ロシア派と親欧米派での対立が続いていた。住民はロシア系が２割を占め、公用語はウクライナ語だがロシア語を話せる人も多くいる。BBCによると、ロシアのプーチン大統領は自らの演説の中で、自分の目的は威圧され民族虐待にあっている人を守るためだとしたほか、ウクライナの「非軍事化と非ナチス化」を実現するのだと述べた（２０２３年３月３日BBCニュースジャパンより引用）。

ウクライナのゼレンスキー大統領はＧ７サミットに合わせて広島を訪れた際に「侵略が敗北に終わり、平和が世界を席巻するために、私たちが団結する必要があります」と述べ、世界中に平和を訴えた。

ロシア軍の死傷者数は約30万人、ウクライナ軍の死傷者は約19万人にも上るそうだ。また、ＵＮＨＣＲ（国際連合難民高等弁務官事務所）によると世界各地に避難しているウクライナ難民の数は６２０万３３００人（８月29日時点）だという（２０２３年８月18日ニューヨークタイムズより引用）。

ウクライナ侵略が始まってから一年半が経過した。未だに、自らの家に帰れず苦しんでいるウクライナ人は多い。私たちはこの戦争や被害を遠い外国の問題だと考えてしまうのではなく、自分にも関係がある問題だと考え、まずは身近なことからウクライナやロシアのことを知るべきだろう。そのきっかけの一つとして、今号で紹介したウクライナ避難民のレストラン「Nadiya」に一度足を運んでみてほしい。（紫）

編集後記

今回の取材を通して、ウクライナの食文化について詳しく知ることができました。私たちが戦争もなく平和に暮らしていることは普通のことではないと気づいたので、これからは身の回りの小さな出来事も感謝して過ごしていきたいです。（布）

今回の取材を通して、今まで知らなかったウクライナのことについて知ることが出来ました。また、ウクライナだけでなく、世界各地の様々なものが身の回りにあるかもしれないということに気づけたので、これからは自分の周りのことにもっと目を向けて色々な新たなことを知っていきたいと思います。（紫）

「Nadiya」に取材に行くことになって下調べをして初めてボルシチはロシアだけでなくウクライナの郷土料理でもあると知りました。その他の文化も近い部分があると知り、国が違うからといって文化を分けることはできないと感じました。（白）